

第 13 回災害廃棄物対策四国ブロック協議会 議事録

日 時：令和 2 年 2 月 21 日（金）13 時 30 分～16 時 00 分

場 所：アイパル香川 第 5 会議室第 6 会議室

議 事：

- (1) 仮置場見学会の報告
- (2) 広域連携体制の手順
- (3) 訓練結果の報告
- (4) 「応援職員にしてほしいことリスト」最終案
- (5) ツールキット案
- (6) 仮置場マニュアル案
- (7) 過年度モデル業務のフォローアップ調査
- (8) 次年度以降の協議会のあり方

1 開会

環境省中国四国地方環境事務所 四国事務所 櫻井所長より開会の挨拶が行われた。

2 あいさつ

(環境省 中国四国地方環境事務所 四国事務所 櫻井所長)

本日は年度末の大変お忙しい中、本協議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。近年、地球温暖化の影響で災害が多発しており、一昨年は愛媛県、岡山県、広島県で、昨年は東日本の広い範囲で豪雨災害が発生した。一昨日 NHK の香川県版ニュースでも、事前の具体的な準備が重要であると報道されていた。災害廃棄物対策については、国交省、防衛省・自衛隊と連携を深めているところだが、特に、水害の場合は、水が退くとすぐに片付けごみが排出されるので、事前に仮置場を設定しておく必要がある。勝手仮置場ができて混合ごみが発生してしまうなど、後々大きな影響が出てしまうことから、各自治体の中での事前調整が重要である。

平成 26 年度、大規模災害時における災害廃棄物に対する四国ブロック協議会を立ち上げ、以後、災害廃棄物を適正かつ迅速に処理するための対策や広域連携について検討を続けている。本年度は、平成 30 年 7 月豪雨を教訓に、特に支援受援体制がより実効性のあるものとなるよう、四国ブロック行動計画の早期の見直しを視野に入れた検討を進めている。本日は本年度取り組んだ調査検討事項について報告させていただく。その取り組み成果が四国ブロック全体の災害廃棄物対策の一助になることを願っている。

本日は、忌憚のない御議論をお願いしたい。どうぞよろしく宜しくお願い致します。

(事務局 山本課長補佐)

議事に入る前に配布資料の確認をさせていただく。

(資料確認・省略)

それでは、議事に入る。以降の議事進行は、川本座長にお願いします。

3 議事

(川本座長)

本日は、ご覧のとおり議事が多くなっている。限られた時間の中で効率的に議論を進めたいので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入る。事務局から資料の説明をお願いします。

(1) 仮置場見学会の報告

(2) 広域連携体制の手順

(3) 訓練結果の報告

議事の「(1) 仮置場見学会の報告」「(2) 広域連携体制の手順」「(3) 訓練結果の報告」について、事務局より資料1～資料3の説明が行われた。説明ののち、以下の通り意見交換がされた。

(事務局 MURC)

(資料1～3説明・省略)

(川本座長)

事務局から説明をいただいた。これに対してご意見・ご質問等があればお願いします。確認だが、今回の説明資料は報告書へ全て掲載するのか。

(事務局 MURC)

たとえば、皆さんからいただいた修正案(意見)一覧などを除き、概ね掲載する予定である。

(事務局 大谷専門官)

資料2 広域連携体制については素案として、次年度見直し予定の行動計画への反映という形で掲載するので、本日ご意見をいただけるとありがたい。

(川本座長)

表示形式への質問である。資料2は10ページの【応援要請する基準(案)】のように、重要なところを罫線で囲んでいるが、他はそうではない。統一した形式はとって

いないのか。

(事務局 MURC)

表現や形式は統一するよう工夫したい。

(藤原委員)

初期の応援要請についてであるが、第1段階での先発隊への要請主体は市町村ではなく県でよいのか。そうなると、派遣隊は実際に被害を受けた市町村ではなく、まず県に行くことになる。災害の緊急時にこれが十分機能するだろうか。

(事務局 大谷専門官)

この体制は、平成30年7月豪雨の振り返りの検証から、愛媛県の実態を踏まえて検討した。当時、被災の大きかった市町に環境省の支援チームが直接入ったが、一方で県との連携がうまくとれなかったといった反省点があった。また、応援を必要とする中規模程度の被害を受けた市町村にまで十分な支援がすぐに行き届かなかったという反省点を踏まえて、被災県を軸に置いた連携体制を考えた。

(藤原委員)

決まったルールで情報がやりとりされる“システム”としては理解する。しかし、システムを組みすぎると動かなくなることも十分考えられる。場合によっては県の判断を待って行動が遅れる可能性があるため、次のステップとして市町が独自で対応する判断の線引きのようなものを検討する必要があると思う。現段階の議論ではないかもしれないが、県は関係各所と連絡をとる必要があり、環境省地方環境事務所も少ない人員で対応する中、県と地方事務所のロジックがどう機能するかをしっかりと検証しておく必要があると思う。コメントである。

(川本座長)

ありがとうございました。

皆さんからの意見はこのあたりまでとし、(4)の議事にはいる。

(4)「応援職員にしてほしいことリスト」最終案について

議事の「(4)「応援職員にしてほしいことリスト」最終案」について、事務局より資料4の説明が行われた。説明ののち、以下の通り意見交換がされた。

(事務局 MURC)

(資料4説明・省略)

(川本座長)

事務局から説明をいただいた。これに対してご意見・ご質問等があれば願います。

(高知市 福富課長補佐)

最後の方で紹介いただいた「受援シート」は、今年度つくるということか。

(事務局 MURC)

今年度はつくらず、次年度以降の検討課題のイメージとして示した。

(藤原委員)

感想だが、非常に役に立つリストだと思う。例えば、必要なモノ・必要なヒトと、実際のデータがリンクして、コミュニケーションツールになるとよい。あるいは、これに関係自治体に広く配布して応援を募るなど、使い方はいろいろあると思う。

(高知県 角)

県職員のでほしいことリストについて、二次仮置場の設計に係る積算や二次仮置場の設置に関する支援は、県の職員よりも業者に委ねる部分が多いと思う。逆に広報や県民への対応などは県の職員でないとできない。県がしやすいこと、もしくは業者に委託した方がスムーズに進むことが整理できればよい。どんな場合に誰が何をやるかが見えると更に有用なリストとなる。

(事務局 MURC)

今年度はリストづくりが主になったが、次年度もし受援シートをつくるなら、受援シートにも、行政か民間か等主体を盛り込む形にできるとよい。

(川本座長)

ありがとうございます。他にいかがか。

皆さんからの意見はこのあたりまでとし、(5)の議事に入る。

(5) ツールキット案について

議事の「(5) ツールキット案」について、事務局より資料5の説明が行われた。説明ののち、以下の通り意見交換がされた。

(事務局 MURC)

(資料5, スライド説明・省略)

(川本座長)

どうもありがとうございました。事務局から説明をいただいた。これに対してご意見・ご質問等があればお願いします。

(宗委員)

実際役に立つと思う。業務の項目別, 自治体別の2つのパターンで分類できるということだが, 県と市町村では仕事の内容が違うので, 県レベル, 市町村レベルのそれぞれの様式があるのではないか。そのような分類の仕方はできるか。

(事務局 MURC)

本来は, それぞれの業務に県のもものと市町村のものがあるので分けるべきだったと思う。広報にも県からのものと市からのもので違いがある。今回は少し分類が大変だったのでこの形式で提示した。

(川本座長)

提供いただいた自治体へは, 後日, 掲載可否の連絡をいただくということでよいか。

(事務局 MURC)

基本的には提供いただいた時点で公表了承との理解だったが, 念のため再度確認する。1週間後を目途に掲載可否の回答をいただきたい。宇和島市には別途郵送で確認する。

(事務局 大谷専門官)

ツールキットの提供の仕方であるが, 配布ではなく, 中国四国地方環境事務所のHPに掲載してダウンロードして活用いただく形を考えている。

(川本座長)

皆さんからの意見はこのあたりまでとし, (6)の議事にはいる。

(6) 仮置場マニュアル案について

議事の「(6) 仮置場マニュアル案」について, 事務局より資料6の説明が行われた。説明ののち, 以下の通り意見交換がされた。

(事務局 MURC)

(資料6 説明・省略)

(川本座長)

事務局から説明をいただいた。これに対してご意見・ご質問等があればお願いします。

(宗委員)

18 ページの下の四角囲みの上から4つめの項目の赤字部分、「…大きく4分類を基本とし」という記述についてだが、その後、処理のために更に分別が必要になるのではないか。それを踏まえて「基本」と表現しているのか。

(事務局 MURC)

現段階では修正意見を採用した結果である。訂正案として良い表記があれば訂正したいので、ご意見いただけると助かる。

(宗委員)

実際には10品目くらい出てくるかと思う。分類の種類は記載せずに「分別ルールを徹底する」ということを強調した表現でよいと思う

(事務局 MURC)

資料6-2の23番目をご指摘いただいた意見である。それを踏まえ「最低4分類」という表現で修正させていただきたいが、いかがか。

(宗委員)

私からのコメントということで、事務局で調整いただければと思う。

(川本座長)

修正したところは赤で表示されているが、本日も意見をいただいた。もう1度照会する機会を設けるか。

(事務局 MURC)

27日に中国地方のブロック協議会があるので、ご意見あるようであれば、それまでに事務局にご連絡いただきたい。

(川本座長)

そういうことなので、皆さん、よろしくお願いたします。

皆さんからの意見はこのあたりまでとし、(7)の議事にはいる。

(7) 過年度モデル業務のフォローアップ調査について

議事の「(7) 過年度モデル業務のフォローアップ調査」について、事務局より資料7の説明が行われた。説明ののち、以下の通り意見交換がされた。

(事務局 MURC)

(資料7-1・7-2説明・省略)

(川本座長)

事務局から説明をいただいた。これに対してご意見・ご質問等があればお願いします。

(高田委員)

なかなか興味深い内容だった。モデル事業の実施自治体は7月豪雨に被災したところが多かったことから、災害廃棄物処理計画の作成がどれだけ役に立つか縮図のような調査結果である。58ページのモデル事業の実施効果のグラフ(図表48)を見ると、トータルでは半数以上が肯定的な回答をしていることから、モデル事業実施は概ね効果があるという評価だと思う。

問題点の指摘にあったように、もともと環境省の災害廃棄物対策指針は大規模災害を想定し、その地域で一番大きな災害(中四国の場合は南海トラフ大地震)を前提としていた。だが、実際に発生頻度が高いのは風水害で、この結果は今後の国の指針改定にあたって必要な検討事項の示唆となっている。今後は、たとえば気候変動適応計画策定ガイドライン等に沿った計画策定にポイントをしぼったバックアップ(災害廃棄物処理計画 気候変動適応編の作成)をモデル事業のメニューとして考えてはどうか。コメントである。

(徳島県 増田主任)

資料7-2の5ページの図表3について、問3-2と問3-3の回答数を合計すると全体回答数の51ではなく、41になるが、この10の差は何か。

(事務局 MURC)

問3-1では、「策定済み」の回答が21件、「策定中」と「その他」の回答が20件だった。10件は回答対象外である一部事務組合の件数である。

(川本座長)

アンケート回答結果の説明について、たとえば「約1割が」といった表現が目立つが、他はパーセンテージで示していると思う。細かい指摘で恐縮だが、表現の統一を

お願いしたい。

(事務局 MURC)

表現は再確認し調整する。

(川本座長)

皆さんからの意見はこのあたりまでとし、(8)の議事にはいる。

(8) 次年度以降の協議会のあり方について

議事の「(8)次年度以降の協議会のあり方」について、事務局より資料8の説明が行われた。説明ののち、以下の通り意見交換がされた。

(事務局 MURC)

(資料8説明・省略)

(川本座長)

事務局から説明をいただいた。これに対してご意見・ご質問等があれば願います。

(高知市 福富課長補佐)

訓練幹事の輪番制の狙いは理解するが、たとえば前回の訓練を踏まえて次はどうするといった引継ぎがうまくいかず、訓練の継続性等が懸念されると思うがいかがか。

(事務局 MURC)

2自治体、たとえば1回目は高知県と愛媛県が、2回目は愛媛県と徳島県が、3回目は徳島県と香川県で実施することも考えられる。また、年度の第1回目の打ち合わせには前年度の自治体が必ず参加するルールを設けるといった運用も考えられる。

(藤原委員)

最近の水害など身近な例が多かったので、初動に着目した検討が多かった。以前、災害廃棄物処理の段階で、どこが受け入れてくれるかという調査があったと思う。今すぐでなくてよいが、廃棄物の受入体制や、(東北のように)広域連携による廃棄物の運搬・処理、災害後のリサイクルなど、初動の後の処理のことに目を向けていく必要があると感じた。

(川本座長)

ありがとうございました。

議事は以上のため、今後の進行は事務局に返す

4 報 告

(1) 本年度モデル業務の報告

- ・ 処理計画策定モデル

(株)東和テクノロジー 佐伯業務部長)

(資料 9 説明・省略)

- ・ 研修モデル

(事務局 MURC)

(資料 10 説明・省略)

(2) 令和元年台風第 15 号・第 19 号における災害廃棄物対策

(事務局 大谷専門官)

(資料 11, 12 説明・省略)

5 その他

(事務局 山本課長補佐)

今後の予定を伝える。本日いただいたご意見を踏まえ、報告書にとりまとめる。なお、一次仮置場設置運営の手引き(案)については、2月27日までにご意見をいただきたい。また、2月27日に開催される中国ブロック協議会で出た意見も踏まえ修正する。報告書の印刷スケジュールを考慮し、最終確認は座長預かりとする。

協議会議事録は公表予定なので後日発言内容について確認する(幹事会議事録は非公表)。

6 閉会

(事務局 山本課長補佐)

以上、第13回災害廃棄物対策中国ブロック協議会を閉会する。

次年度も引き続きどうぞよろしくお願ひ致します。

本日はどうもありがとうございました。

以 上